

ジャングル中の護衛付き磁気探査

フィリピンのミンダナオ島 ザンボアンガデルスールの「ミッチャリップ」における鉄鉱床調査に 去る32年7月から約4カ月間磁気探査に出かけた時の写真である。

調査現場は錦蛇その他コブラ等の猛毒を持った蛇が多く 非常に危険な土地で 小銃を持った護衛が調査についてくる。(写真では小銃が暗くてわかりにくい)

ジャングルの中の大木はラワンが多く その他ヤシ・バナナ・アバカ等があり またこれらにからみついた大きなツタが奇形を呈している。

これらの大木は 何千年の間に自然に枯れてくさって 従横無尽に大地におおいかぶさっている。調査はこれらの倒れた大木の上を通ったり 横切ったり 刈払ったりしながら進んでいくので思うようにはかどらない。

また湿気を含んだこの地は非常にむし暑く 調査は困難をきわめた。使用機械はドイツのアスカニヤ製シュミット型磁力計で この機械を調査全区域に10m~20m毎に設置して 各点での磁気の強さを測定し 地下の鉄鉱床の分布を推定する。

調査班の人員は測定者 護衛のほかにも人夫3名(機械・三脚・附属品・飲料水 食糧等の運搬のため)の計5名である。



所内第4回写真コンクール 入選作
「ジャングル中の護衛付き磁気探査」物理探査部 柴藤喜平

・ 関根良弘 技官 西ドイツへ留学

鉱床部鉱石課の関根良弘技官は西ドイツのウラン鉱床研究のため 去る8月25日東京羽田から空路出発した。なお 帰国は34年7月の予定である。

・ 北海道支所開設10周年 記念式典について

昭和23年8月地質調査所北海道支所が開設され 本年度10周年を迎えるので 次の通り 記念講演会ならびに式典を挙げる
10月2日(木) 記念講演会
札幌商工会議所
10月3日(金) 記念式典
札幌市民会館



関根良弘 技官

… 地質調査所の出版物 …

・ 地質調査所月報 (第9巻第8号)

報 文

本間 一郎・小野 吉彦: 埼玉県北部容水地盤電気探査報告
蔵田 延男・安藤 武・森 和雄: 東京都城南工業用水源 小規模地域調査報告
原田 久光: 福島県阿武隈山地の鉄マンガン鉱床調査報告
野 沢 保: 宮崎県大崩山酸性岩脈に伴なうミロナイト質礫 状岩調査報告

概 報

岩崎 一雄: 応用天文測量実験研究観測中間報告

谷 正己・齊藤洋彦: 宮城県蒲沢鉱山周辺地域の含チタン

砂鉄鉱床概査報告

牧野登喜男: 北海道函館市湯ノ川温泉炭酸ガス調査報告

資 料

褶曲地域の斑状岩層の問題

硫化物のS同位元素に関するデータについて

・ 地質調査所月報 (第9巻第9号)

報 文

Katsura Oyama, Atsuyuki Mizuno: On the New Forms of Paleogene Molluscs from Japan

岸本文男・郷原範造・石田与之助・加藤甲王: 新潟県大倉 鉱山地質鉄床および化学探鉄調査報告

本間 一郎: 岐阜県大垣地方南方地下水電気探査概報

蔵田 延男: 九州地方工業用地下水源予察調査報告

資 料

太平洋北西部の海淵の堆積物中における

硫化鉄および硫化水素の分布について

訂 正

地質ニュースNo. 48 20頁 地質調査所月報(第9巻第7号)の「報文」項から「尾原信彦: 和歌山県日高川上流ウラン黒色頁岩の開発の可能性基本調査報告」を削除し「資料」の項へ「含鉛金属鉄床における鉛の同位元素の組成差の地球化学的意義について」を追加します。なお「概報」の項中村頼三・丹治耕吉: ……は中村頼三・丹治耕吉の誤りです。